



CCC学生スタッフによる

地域に根ざし、世界に開く

コラボ通信

第17号
2008年11月10日

目次

CCC 学生スタッフはこんな人達です!!!	1
海外ボランティア報告会	2~3
夏休みのボランティア活動報告	
~長久手キャンパス編~	4
~星が丘キャンパス編~	5
CCC 開設科目での活動を報告します!!!	6~8

CCC は地域と連携し、学生の思いや成長を応援する教育機関です。地域、社会、世界の人々と出会い、協働することで、大学で学んだ知識を活かしたものにしていけるようにサポートしています。これまでに、多くの学生がCCCを通して地域に飛び出し、NPOや市民団体、企業などと連携して共に活動しています。

CCC学生スタッフはこんな人達です!!!

日替わりの学生スタッフがみなさんの来訪を待っています



文化創造学科 4年
大藪里奈



文化創造学科 3年
西脇利奈



文化創造学科 3年
桐生大也



文化創造学科 3年
堀友弥



文化創造研究科 2年
近藤久恵



現代社会学科 4年
柴田督史



現代社会学科 4年
朝倉浩之



言語コミュニケーション学科 4年
金井綾美



英文学科 3年
伊藤かほり



コミュニケーション心理学科 2年
三浦千晶



10月からスタッフになりました。たくさんの人と出会い一緒に成長していきたいなと思っています。いつでも声をかけてください。



「大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2008」に参加!!!

フェリス女学院、関西学院大学、立命館大学、龍谷大学など全国の大学から学生スタッフ70名がくいだおれの街大阪に集まり、9月19日~20日にかけて1泊2日のセミナー合宿を行いました!皆でボランティアの本質を学び、グループに分かれてコーディネーション・企画・広報について考え討論しました。実際にボランティアに真剣に関わっている人たちが集まったセミナーだったので、大いに刺激を受け、学生スタッフ同士互いに情報交換をして意識を高めあいました。

海外ボランティア報告会

今年の夏休みに海外ボランティアに参加した学生が、長久手 CCC にて報告会を行いました。
海外ボランティアの内容や報告会の様子を紹介します。

★ ベトナム・カンボジア スタディーツアー 報告会:10月15日

NPO法人 ACHAN JAPAN スタディーツアー 11日間 (8月19日~8月29日) 参加
報告者:コミュニケーション心理学科2年 三浦千晶さん

「ボランティア体験・スタディーツアー」に11日間参加しました。ツアー内容を大きく分けると3つあり“福祉”“内戦・戦争”“歴史・自然・文化”です。スタディーツアーの利点は、勉強するという目的が明確である点だと思います。孤児・障がい者の生活や格差社会の現状を目の当たりにし、肌で感じる事ができました。

もし行きたいと思っている人がいれば、まず興味のある国や事柄について調べる事をおススメします。親に反対され、不安過ぎて行くのを止めようと思った時期もありました。しかし、たくさん悩んだからこそ自分に合ったツアーに出会い、参加し、満足することができました。今思うと、勇気を出したのは「絶対参加する!」と決めた時だけだったように感じます。1歩だけ踏み出して下さい。みなさんの世界観が変わると思います。



インド マザーテレサ施設ボランティア活動 報告会:10月16日

「地球の歩き方」インド「マザーテレサ施設」活動 11日間 (8月20日~8月30日) 参加
報告者:コミュニケーション心理学科2年 瀬尾郁美さん

今回、インドに行ってきました。初めての海外でしたが、インドに行って良かったと思います。インドは TV で見るより素晴らしい国です。毎日人が生き生きとして、「生」について考えさせられました。出発前に下準備をしたつもりでしたが、全く足りませんでした。言語も現地の言葉を少し覚えて行くとイイと思います。

ボランティアで何より一番大事なのは、やる気です。みなさんも無理のないボランティアをして下さい。



★ ベトナム マングローブ植樹活動 ★ 報告会:10月23日

南遊の会(NGO) ベトナム植樹活動・交流ツアー 10日間 (8月16日~8月25日) 参加

報告者:現代社会学科4年 大島誠二郎さん 英文学科3年 池田侑さん

英文学科3年 川嶋杏奈さん 英文学科3年 村上亜由美さん

「モッ、ハーイ、パー、ヨー！」ベトナムで過ごした10日間このかけ声が毎晩飛び交った。そして調子モンの僕はビールを飲み、飲まれていたなあ。毎日がお祭り騒ぎで1日1日がとても濃く充実していた。日本へ帰ってきて1週間くらいはベトナムで過ごしたあの日々が夢にでてきた。さて私がこのツアーで一番の目的にしていたのがベトナム人学生との交流だ。カンザーでは4日間、朝から晩まで共に過ごした。家族のような感覚さえした。蚊は多いし、トイレの紙は流せないし、雨水でのシャワーだったけど、ホーチミンのホテルで過ごした時間よりずっとずっと最高に楽しかった。みんなでバスに揺られ、ぬかるんだ道なき道を歩き、汗だくになりながら背丈より高いニッパヤシを刈る。夜は食べて、飲んで飲んで飲まれて飲んで。近くの海岸では語り合い、歌い合い、叫び続けた。



ベトナム人学生はみんないい奴ばかりで、個性豊かだった。気配り上手なジェントルマン、ギア。虚弱なようで高飛車なタム。無茶ブリするが頼もしいレナ。みんな優しく、よくしてくれた。勉強熱心だとも感じた。みんな日本語のメモを持っていて意味をたくさん尋ねてきた。そんな日本語何で知ってんの？みたいな言葉も知っていた。この姿勢は自分も含め日本人学生は見習わないといけないと思う。ベトナムではたくさん学び、貴重な経験をさせてもらった。カンザーの田舎からホーチミンの発展し続ける都市部まで。戦争の悲劇から40年近く経ったベトナム。「ここまで復興し、発展したんだ」とホテルの屋上で思い、胸がジーンとした。 Xin Cam on (ありがとう) - 大島誠二郎 -

海外ボランティア報告会を終えて...

報告会のアンケートに書かれていた質問を各報告者に聞いてみました！！

Q1. やっぱり英語は大切ですか？

A1. できたほうがいいですが、話せなくても大丈夫です (三浦)

Q2. 出発前に大変だったことはなんですか？

A2. 私は、準備が大変でした...笑(三浦)

Q3. インドで一番おいしかったものは何ですか？

A3. うーん...チーズカレーかな (瀬尾)

Q4. 行こうと思ったきっかけは何ですか？

A4. ゼミでアジアについて専門に学んでいたこともあり、ノリで決めました (大島)





夏休みのボランティア活動報告

名東 COP10 フェスタに参加して

長久手
キャンパス編

ビジネス学科 2年 櫻井章弘さん

私は今までボランティアをあまりしたことがなく夏休みに人のためになれるボランティアをしようと思い、名東 COP10 フェスタに参加しました。私は1人で申し込んだのでちゃんとできるかどうか心配でしたが一緒にボランティアを行った学生や役員の人達が話しかけてくれたのでうれしかったです。ボランティアでは子ども達と一緒にエコキャンドルを作ったりして充実した時間を過ごす事が出来ました。しかし、人のためになれたのか？周りがよく見えていなかったのではないかと反省点もあります。次回のボランティアでは、もっと積極的な姿勢で参加したいです。



ひかりの里 夏祭りサポート

図書館情報学科 1年 森田隼平さん



初めてのボランティアで、友人と一緒にいくつもりでしたが、友人が急な用事で来られなくなり、一人で行くことになりました。凄く不安でしたが、スタッフの方が優しく接して下さって緊張がほぐれました。

祭りの準備の為、移動する際に車椅子の方がいらっしゃったので車椅子を押したり、段差の所は持ち上げたりしました。お手伝いをする事によって障害者の方は私を頼ってくださるようになり、心を開いてくださいました。やはり率先して行動することで、相手も自分も嬉しい気持ちになって打ち解けることができたので、これは大事なことだと感じました。

これをきっかけに車椅子の方が居たら率先して手伝いたいと思いました。

江比間野外活動センター キャンプカウンセラー

図書館情報学科 1年 高木理恵子さん

私が小学校の頃、学校の行事で行ったキャンプが今でも思い出に残っています。カレー作りやキャンプファイヤーで、楽しませてくれたカウンセラーの方々に憧れてこのボランティアに参加することに決めました。友達と日にちが合わず、1人で2泊3日参加しました。

子どもたちに教えるために、キャンプ場のルールを覚えました。子どもの前では自分が手本にならなくてはとと思っていましたが、いざ接してみると子どもから学ぶ事が多く、子どもの目線で素直に楽しむと、自然に笑顔になっていることに気づかされました。シーズン中の仕事はすごく大変だったけど、自分が頑張っただけ達成感として返ってくるし、それが分かっただけでも人として成長できたと思いました。



ものクリ 2008 カンガ・ファッションショー

ビジネス学科 3年 杉浦春菜さん

私たちは9月20・21日の2日間、東京ビックサイトで行われた「ものクリエイション 2008」というフェスティバルに参加しました。このフェスティバルのテーマは“見て・習って・楽しんで”です。

私たちタンザニアのブースは、

- ◆ 習って = お客様にカンガ(民族衣装)の試着体験
 - ◆ 見て = ファッションショー
 - ◆ 楽しんで = 記念撮影
- をモットーに活動しました。

お客様にカンガの着付けをすると、とても喜んでくださり、又、タンザニアに興味を持っていただけたことが伝わってきたのでとてもやりがいがありました。次のイベントではお客様に積極的に話しかけて、タンザニアの文化について説明し、又、カンガの着付けもお勧めしたいです。



星が丘キャンパス編



名養クラブデイキャンプ

～養護施設の子ども達と
1日キャンプ～

福祉貢献学科2年 青木千枝さん

私は小1と小6の男の子の担当で最初は大変かなぁと不安だったけれど、一緒に1日行動していくうちにとても仲良くなれました。

このデイキャンプは1日だけだけど、子どもの親代わりになって、触れ合って愛情を注ぐというもので、年齢的に私はお姉さんという感じだったけど、思い切り楽しみました。公園内には、いろんなゲーム・食べ物があって、3人で食べては遊んでの繰り返しでした。本当に1日はあつという間で別れるのは寂しかったけど、最初に配られた帽子にお互いの名前を書きあったので、1日の楽しい思い出はずっと忘れずに子どもの心にも残ると思います。来年も参加したいです。

文化創造学科1年 竹田有貴子さん

施設の子ども達は皆とても元気で、明るい子たちがたくさんいました。私が少し緊張しながらも話しかけると、笑顔で応えてくれて、すぐになついてくれました。一緒にゲームに参加したり、ご飯を食べたり、子どもだけでなく私も楽しく過ごせました。また、私のためにミサングを作ってくれてとても嬉しかったです。

施設の子達は、何らかの事情を抱えているけれど、明るくて強い子がたくさんいるのだと思いました。



AHIお出かけボランティア

文化創造学科2年 服部絢子さん

このボランティアはガイドとして、アジア(アフガニスタン、インド、フィリピン等)からの研修生を名古屋周辺の名所等へ連れて行くものです。研修生はみんな英語が完璧！でも陽気で気さくな人たち(祭り会場で踊りだしたり...)ばかりで、すぐに打ち解けられました。祖国の発展のために働く人々にとって、日本での観光は色々な勉強になるようです。

アジアの国々の話を聞いて、日本がとても例外的な国であることがよくわかり、ちょっとしたアジアン・ジャーニーを体感！

英語は全くできませんでしたが、何よりもやる気があることが大事みたいです。アジアの保健事業・政治に興味のある人にもオススメです！(ただし、難しい話は要英語力...:)

さらに、服部さんに質問!!

Q: 例えば、どんなところが日本は例外的な国なんですか？



フリースクール ボランティア

福祉貢献学科2年 大西真理さん

何らかの理由で学校に行くことができなくなった子ども達が通うフリースクール。私はそこで、通っている子どもたちと接する他に、事業としての“情報”に関する広報活動の動かし方を学んだり、“不登校”といわれる子どもを持つ親の想いに真近く触れる機会を得るなど、とても貴重な経験を数多くさせて頂きました。

勉強になることは大変多く、知らないことばかりで、聞くこと聞くことが本当に驚かされるものばかりでした。

今後も、様々なことに参加させて頂きながら、色々な視点を持ちつつ、子ども達と関わっていけたらと思います。

A: 色々あったんですが、まずは発展のしかたが段違いついてというのが一番ですかね...。あと研修生が言っていたのは、

お茶が甘くない。

(他の国はみんな甘いそうです)

公衆衛生が素晴らしい。

(リアルに道端に死体が置いてあるそうです...文化の違いでしょうが;)

電車がキレイ、速い、時間通り、線路がちゃんと通っている。

大学生なのに英語しゃべれない子が多い。

「君たちは休日なのに働くのかい？みんな休むためのナショナルホリデーじゃないの??」

丁度麻生さんが首相になったころ:

「ねえ、こんな時でも日本の人は政治の話をしてないの?」

一人で遊んでいる子が多い。

兄弟はいないの?

物価が高すぎる!

でもチョコレートは安い(らしい)!!

シャイすぎる!

せっかく覚えたコンニチハを使っても子ども以外は誰も返してくれない。

他に、研修生と接してみて個人的に感じたのはみんなとても信仰心が篤いこと。仏教でもキリスト教でもヒन्दウー教でも...

CCC開設科目での活動を報告します!!!

① 北海道アイヌ視察に行ってきました!

(地域総合活動演習 A 担当:小島祥美先生)

私は8月31日から9月3日の4日間、講義の一環でアイヌ民族の視察のため北海道に行きました。講義は地域総合活動演習 A というもので、主に日本における外国人に対する取り組みや彼らの現状を知るというものでした。北海道アイヌ視察と言っても、私たちがアイヌ民族の方々にインタビューをするというもので、自分たちが持っている素朴な質問や疑問などを投げかけ、それについて答えてもらうというものでした。

私は今回の講義を受けるまでほとんどと言っていい程アイヌ民族についての知識はありませんでした。また講義でアイヌ民族について学んだとはいえ、深い内容やアイヌ民族の方々の生の声や意見となると難しいものがあります。そのため、今回の北海道アイヌ視察は私たちにとってアイヌの方々の生の声を聴くことのできるとても良い機会でした。インタビューでは私たちの質問一つ一つに、アイヌ民族の方々の率直な考えや意見、彼らの訴えなどを踏まえて答えていただくことができました。



今回のこの経験は私にとってとても実りがあったのと同時に、私たちは物事を正しく知るといふことを実践しなければいけないと感じました。アイヌ民族の置かれている立場を知った私たちですが、私たちにはなにができるのでしょうか。なによりも私たちがしなくてはならないことは、アイヌ民族について正しい事実を知ることです。彼らは現在も様々なものと闘っています。そういった私たちの理解が、彼らを助けるものとなっていきます。



次は、中部電力㈱でプレゼンテーションを行った学生の声です。

② 中電でプレゼンテーションを行いました!

(コミュニティ・サービスラーニング A [企業のCSR活動] 担当:小林三太郎先生)

文化創造学科3年 桐生大也さん

この授業では中部電力㈱とコラボして、学生自身が実際に中部電力のCSR活動を考え、その案を持って本社に乗り込み、担当者前でプレゼンテーションをするというものでした。しかし学生はCSRという言葉になじみが無く、そもそもCSRって何だ?というところから始まりました。そこでまず小林先生や中部電力の広報の方からCSRのいろはを教えてもらいました。それによると、CSR(Corporate Social Responsibility)とは企業の社会的責任と訳され、「企業は社会の一部として様々なステークホルダー(住民・行政・自治体など)によって支えられている存在であり、組織活動が社会へ与える影響に責任を持つ義務がある」ということだそうです。簡単に言うと、「社会にとっていい事をしよう」ということです。だから本来、企業は食品偽造や不法投棄など下手なことはできないはずなのですが、こういったニュースが世間を騒がせているのは悲しいことです。CSR活動といっても、その内容は幅広く、主に企業の得意分野で活動を行っています。



文化創造学科3年 野口友裕さん



そして中部電力は「環境」をテーマにして CSR 活動を行っていました。学生らしい斬新なアイデアを期待され、頭の固い私達は苦勞し、何度もミーティングを重ね、担当者の方から鋭い意見をもらいながらも何とか一案を完成させました。そして中部電力本社に行き、社員約30人の前でプレゼンテーションをしました。そこで感じたのは、企業人の視点と学生の視点の違いです。学生側としては、ただ環境に良く、地域に貢献できる活動を考えていたのですが、企業としてはその活動に会社としてどんなメリットがあるのかをとても重要視していて、コストはどのくらいかかるのか？その活動は中部電力じゃないとダメなのか？というところを厳しく指摘されました。その指摘は全てとても的確で、企業人の視点を学ばせていただきました。また、社員の方々も私達のことを学生ではなく、社会人として接していただき、一足先に新入社員気分を味わえた気がします。

まとめとして、近年企業の不祥事が増えており、企業のあり方が見直され、CSR 活動が大きく取り上げられてきています。しかし、改めて考えて見ると、CSR 活動とは本来、企業にとって当たり前の活動なのかもしれません。また、CSR 活動を謳い、広報活動に力を入れ、肝心の内容が伴ってない企業がたくさんあることも学びました。こうしたことから、私達ステークホルダーは客観的に CSR 活動の本質を見抜く必要があるのだと思いました。

3 在住外国人の子どもの思いを映像にしました！

続いて、CCCスタッフ日置さんのレポートと学生の感想でお伝えします。

(コミュニティ・サービスラーニング A 担当：小川明子先生・小島祥美先生)



この授業では、地域に暮らす住民と在住外国人がお互いをよりよく理解することを目指した今年度初のプロジェクトが行われました。このプロジェクトとは、外国の小中高生が普段の暮らしの中で伝えたいことを映像作品にし、地域メディア(ケーブルテレビなど)で発信するというものです。学生達は大学で学んだ知識を生かし、8月22・23日の2日間岐阜県可児市へ行き、外国人の子どもと2人1組になって作品を完成していきました。この作品は子ども達が撮影したデジカメ写真を繋げ、日本語でのナレーションを加えて3分以内に編集されています。学生達は、可児市に暮らす外国人住民の家庭でホームステイにも参加。体験学習を通じ、外国人住民が抱える課題を学びました。



CCC スタッフは、10月8日に行われた振り返り会に参加させてもらいました！振り返り会では1人1人の作品が流されましたが、家族・将来の夢・通学路の風景など生活の一場面を紹介した作品はどれも個性的で、テーマ決定までに履修者の皆さんが外国の子ども達とたくさん話をし、それぞれの伝えたいものを引き出していったことが感じられました。最後に、プロジェクトに参加した学生の感想をご紹介します。



印象的だったこと

- ・最初は全然話ができなかったけど、最後は自分から自分のやりたいことを伝えてくれた。
- ・作品が完成した時、「お姉ちゃんのおかげでできた！」と言ってくれた。
- ・担当の子が撮っていたカメラを後で見たら、自分ばかり写っていた。
- ・別れがさびしかった。
- ・満足するまで何度も作り直してくれた。
- ・シャイな子だけど、作業中に「楽しい！楽しい！」と言ってくれた。

大変だったこと

- ・日本語でのコミュニケーションが難しかった。(でも、粘り強く頑張った！)
- ・なかなか自分からは話してくれなかった。
- ・担当の子は自分の思いや考えを日本語の文章にするのが大変そうだった。

4 ボラみ展の企画・運営に携わりました！

最後に、学生スタッフ西脇さんから、学生の感想なども交えて、お届けします。

(コミュニティ・サービ斯拉ーニング A 担当：小島祥美先生)

ボラみ展は10月5日(日)に星が丘キャンパスで開催されました。約30団体が参加し、それぞれのブースで活動紹介やボランティア情報の提供が行われていました。点字などの体験コーナーや、ボランティア関連の講座も開催され、多くの学生や地域の方で賑わいました！



「ボラみ展 in 愛知淑徳大学CCC」は、ボランティアをしたい人と求める団体をつなぐイベント！！

トヨタボランティアセンター 鈴木盈宏氏による講座「CSRとボランティア」の感想

文化創造学科1年 宮西真以さん
一番印象に残った話が、女子高生がボランティアを通して成長した話です。自主的ではなく、他人から言われて募金活動を強制的に行うことになった女子高生。けれども実際活動してみると、泣いてしまったそうです。おばあさんが1万円を入れて「お願いします」と言ってくださり、そういう優しい心に触れていくうちに言葉にならないものが込み上げてきたからだと思います。少しだしなない格好で来ていた彼女達は、次の日きちとした服装に変わっていたのです。この活動を機に人生が変わったと言っていました。

ボランティアはやったからこそ分かるものがあるのだと思いました。多くの方にも感動を味わってもらいたいので、私もボランティアを通して学んだこと・成長できたこと、あるいは聞いた話を伝えていきたいです。

参加団体の「オイスカ中部日本研修センター」のブースでお手伝いをした学生の感想

英文学科3年 藤本己子さん

私は、豊田市にある財団法人オイスカ中部日本研修センターで活動をしています。オイスカは「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に設立されました。現在、センターでは13カ国25名の研修生が農業を中心とした地域開発、自助自立の為に人材育成の研修等を行っています。

当日私達は、体感型のゲームやクイズでオイスカを知るブースにしました。どの団体さんも活気があり、迫力に負けそうになりましたが、オイスカならではの温かく家族のように迎えてくれる心を忘れずに楽しく取り組みました。これからも、私自身、ぐんぐん大きくなる野菜のように吸収して活動していきたいです。

企画・運営に携わった学生の声

ビジネス学科4年 浅野博哉さん

「皆で何かを作り上げるって楽しい！」
これは今回参加して一番思ったことです。学生だけではなく、地域の方々とも一緒に創ることで、みなさんのボランティアに対する思いも聞くこともでき、充実した時間を過ごせました。小島先生の授業やボラみ展の企画・運営を通して、幅広いネットワークが築けたことに感謝します。



主催者の声

ボラみみより情報局 戸村京子さん

ボラみみより情報局主催の初のビッグイベントでしたが、多くの人の協力で実現しました。学生を中心とした講座や交流ラウンジの企画もあり、当日の会場アーチや看板などは、アイデアとエネルギーが溢れ、大好評でした。「ボランティアはじめてみたい」などの声が聞けて、きっかけ作りとして最高の場になりました！！



	長久手キャンパス	星が丘キャンパス
利用時間	9:00 ~ 18:30 (授業日以外 9:00 ~ 17:00)	
場所	アクティブラーニングスタジオ内	1号館1階
連絡先	0561-62-4111	052-781-1151
E-mail	asccc@asu.aasa.ac.jp	